

分團保育を試みつ

岡山市立幼稚園 折井彌留枝

私は昨年九月から分團保育といふ事を試みてゐますが、其成績は大に見る可きものが在るので、爰に本誌の餘白を借つて、其方法と意見とを發表して、大方の御批評を乞ふことにした。

先づ私は分團保育の試みを思ひ立つた動機からお話しやう。私の現在興つて居る幼稚園は、何れも百六十人以上二百人の幼児を收容して居て、其を四人乃至五六人の保姆にて取扱ふといふ現狀で在つて、何れも一人の保姆の所持つ人数は四十人を下らない。そこで、之れを保育するに、從來の如き一齊的保育の遣方では、唯々喧騒無秩序なる群集となり、從て保育の原則として最も貴重なる自發的生活などは得て望まれないのみならず、相互的保育も不可能である。且つ幼児の個性調査に就ても、從來は一二人づゝに就き其個性を調べて居たが、周圍の事情の爲め、本眞劍に子供を釣り込む事も出來ず、又、其總ての調査が單に表面のみの調査となり、眞に其兒の個性

を洞察することが出來ないで只徒に其日を過す場合が無いでも無い。其上、保姆と兒と眞率に遊ぶ事が出來ないから、止を得ず暗示的に抑へ付けなければならぬやうになる、然るに之れを分團にすれば、自然保姆と幼兒との關係から云つても眞實味はれる又相互的生活をも味はれる、斯くてこそ始めて理想的の保育を観ることが出來る、斯うして根本的に騒々しき群集の中から少しづゝでも救ひ出して遣りたといふ云ふ、鐘念から思ひ立つたので。之れが此分團保育の産れた動機で在る。

次に來る問題は、其分團の方法は何うかといふ事であるが、之れには子供が自發的に相互團になると、一は先生から干渉して分團を作るのと、此二様の方法が在る、先づ自發的に相互團になる場合は、例へば、四十人の園兒の中、十人だけを小さなお室に入れ、しんみりとした保育をする、餘の三十人は他の組の遊仲間に預ける、それで其時の遊び材料、

其他の物は毎日く在りたけの物を與へないで、毎日種々なる遊び材料を取替へて與へる、然うすると子供は意の向ふが儘に、或者は砂場、或者は積木、或者は粘土、又は庭園の草原にて虫追ひ、其他木蔭などにて自ら場處取事、飯事、お雛遊、繩飛び、お弾き、大工事、或は畑の茄子などを採り、象、馬、牛などを作り、木の枝にて足などを作りて、積木にて動物園を作り、又一方では、樹木に下がつて居る蓑蟲を採つて巢の中から蟲を出して觀察したり、又紙切れを細かく切つて蓑蟲の着物に與ふるなど、思ひくゝに相互團となつて、自發生活をして居るのである。之れ實に自發であつて、自然の分團ともいふべきである、互に十人宛の保育をする爲めに、他の組に預け合ひをした時、最も必要な事は、申す迄もなく保姆同志の意志が疏通して、互に他を助けて全體保育の効果を擧げること、留意しなくては、到底此目的を達することは不可能である。

次に先生から分團をするには何うするかといふに時には朝登園の際、各兒に自由に材料を撰擇させて分團を作つたことも在つたが、然し其各兒の欲求を誌して見た處、粘土を好む者は何時も粘土製作を希

望し、積木の好きな者は何時も積木といふやうに、一方に偏して、何だか物足らない、充實せない心持がするので、一週間に二三回は必ず先生から適當に分團を作つて遣るやうにした、そして雨天續や、極寒の時には取分け此分團法を多く實行して居る。

此方法は最も設定保育で在つて、先づ四十人あれば之れを四組に分團して、園兒に相談して、其組々に適當の名を附ける、即ち旭組、月組、森組、瀧組などの如きである。それで例へば旭組に粘土、月組に畫き方、森組には剪紙、瀧組には糊紙、綿絲、鉄、豆、竹等を與へ、此四組に向つて、共通的の或一の目的を與へる、即ち先生から八百屋事をして遊びませうといふと、各組は其目的に向つて自發的に各工夫を始める、即ち粘土では梨や、ばな、栗、茄子など、思ひくゝに果物を作る、又畫方では同様に、其目的に向つて柿とか、梨とか、色々な物をかき現はす、すると剪紙の組では、他の組と同様、種々な果物を作つて遊ぶ、瀧組でも同様、赤き紙に綿を入れ、柿や林檎を作り、柿は糸で之れをつるし、又綿を丸めては卵を作り、或は紙で袋を貼るなど、各組とも頗る興味を以て、一心不亂に遊んで居る、先生

は其中の或組一に限つて、特に注意して個性を調べるといふやうにして居る、尙次の時には其各組の材料を交換して、同一目的の下に創作せしむる事もあり、或は新に共通的目的を指示することも在り、時には各組園児の自發的に撰擇した目的を採用することも在る。

斯くして自發的に意義ある設定保育を施して居るのである、併し此方法も現に研究中で在つて、其成績は今爰に明確に發表する事は出来ないが、此分團的取扱に就いて、今日迄に著しく感じた事が在るか、其れを箇條的に申述べて、本稿を了へやうと思ふ。

- 一、園児の皆が熱心になり、物に對して興味を持つ事。
- 二、精神が高潔快活に成り神經が靜平と成る。
- 三、自發性を養ひ、豊かなる生活が出来る。
- 四、幼兒相互に親密となる事。
- 五、相互生活に依つて同情心が厚くなる。
- 六、子供は子供らしい人格を作るやうになる。
- 七、意志の纏りがつく事。
- 八、注意力を養ふ事が出来る。

九、道具の引張り合ひの如き争ひ事が少なくなる事。

一〇、用具等の不足を來たすことを免れる。
以上日頃の研究實驗して居る、我幼稚園の保育其儘を卒直に無秩序に申し上げた譯で、何うか充分御批正下さるならば望外の幸である。

第二回全國幼稚園關係

者大會の記

てい子

既記の如く大會は左の日程を以て去る十月十七日より十九日迄三日間大阪市公會堂で開催された。

第一日 十月十七日(神嘗祭) 午前九時開會
午後五時閉會

- 一、一同着席
- 二、唱 歌 君か代
- 三、開會の辭 大阪市保育會長
- 四、祝 詞 文部大臣以下 數 名
- 五、議長選舉
- 六、文部省諮問案討議